

ライト点灯機能について

どのモードでも (B) ボタンを押すと文字板が約 1.5 秒間発光し、暗いところでも表示を見ることができます。



〈注意事項〉

- 直射日光下では発光が見えにくくなります。
- 発光中にアラームなどの電子音が鳴ると、発光を中止します。
- 発光中に時計本体より音が聞こえることがありますが、これは発光のためELパネルが振動するときの音で、異常ではありません。

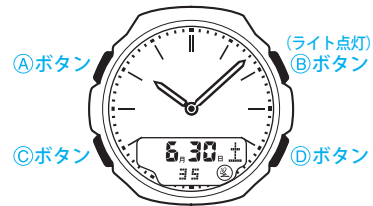
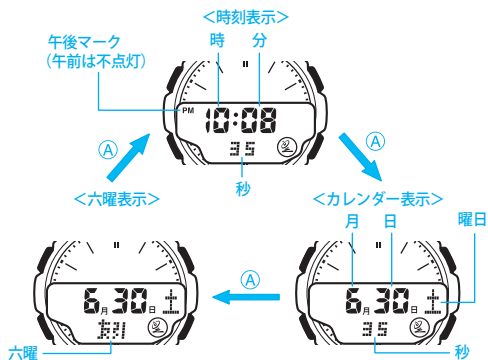
操作のしくみと表示の見方

※各モードでボタン操作をした後 (C) ボタンを押すと、直接時刻モードに戻ります。

※ストップウォッチモード以外で何もボタン操作をせず2～3分間経過すると、自動的に時刻モードに戻ります。

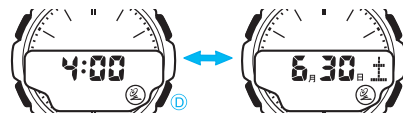
時刻モード

デジタル表示は(A) ボタンを押すごとに、時刻表示とカレンダー表示と六曜表示が切り替わります。



●受信確認

(D) ボタンを押すと、前回受信した時刻と月日・曜日を交互に表示します。



六曜表示の見方

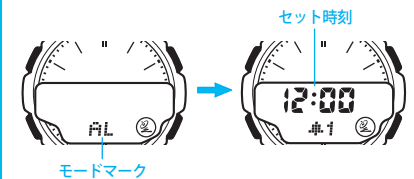
大安	先勝
大勝	先負
大安	先勝
大勝	先負
大安	先勝
大勝	先負

六曜サーチモード



P.14

アラームモード



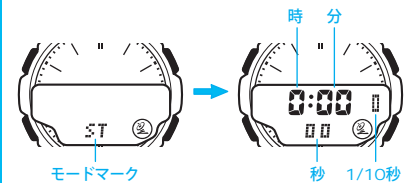
P.16

ハンドセットモード



P.21

ストップウォッチモード



P.18

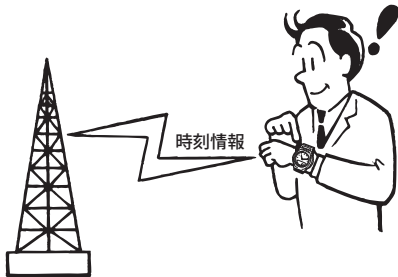
電波時計について

■ 電波時計とは

正確な時刻情報〔日本標準時〕をのせた標準電波を受信することにより、正しい時刻を表示する時計です。本機は長波標準電波 JJY (40kHz) を受信します。

★ 標準時とは

日本の時刻のもとになるもので、テレビの時報などに利用されています。この標準時は「セシウムビーム型原子周波数標準器」等により制御されています。

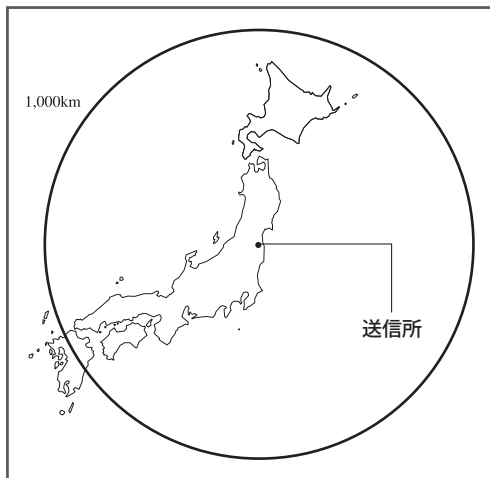


■ 電波の受信範囲の目安

条件の良いときは、送信所からおよそ1,000km離れた場所でも受信することができます。

※ただし、約500kmを越えると電波が弱くなりますので、受信しにくくなる場合があります。

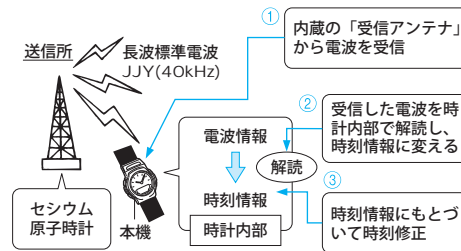
また、受信範囲内であっても、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯（昼・夜）などによって受信できないことがあります。



■ 標準電波

標準電波は郵政省通信総合研究所 (CRL) が運用しており、長波標準電波は福島県田村郡おたかどや山の標準電波送信所から送信されます。

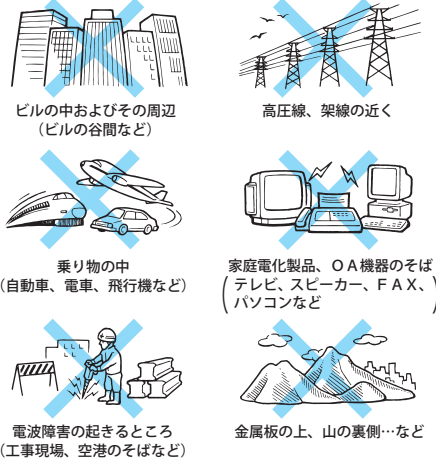
この標準電波は、ほぼ24時間継続して送信されていますが、保守作業や雷対策等で一時送信が中断されることもあります。



■ 使用場所について

電波は、以下のような場所では受信しにくくなりますので、このような場所を避けて受信を行なってください。

※電波受信については、ラジオやテレビと同じようにお考えください。



受信がうまくいかないときは、上記のような場所から離れ、受信状況の良いところで再度受信してみてください。

■ 受信方法について

受信方法には、以下の2種類があります。

- ① 自動受信 (午前 2・4・6 時に自動受信します)
- ② 手動受信 (ボタンを押して手動受信します)

※工場出荷時には、自動受信を行なうようにセットされていますので、電波を受けるのに適した環境であれば、自動的に受信を行なう、正確な時刻を保ちます。

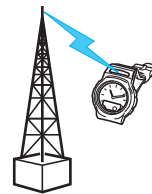
● 受信前の準備

受信しやすくするために、本機を腕からはずし、右図のように時計上部 (12 時位置のアンテナ) が立つようにして電波送信所方向に向けてください。

● 時計上部が電波送信所方向 (9 ページ参照) に対してまっすぐ向いていないと、受信しにくくなります。

● 時計本体を横向きに置くと受信しにくくなります。

● 受信中、時計を動かさないようにしてください。



● 受信時間は?

受信時間はおよそ 4 ~ 11 分です。

● 受信インジケータ

受信中は受信状態によってインジケータが変化します。安定状態がなるべく長く保てる場所で受信してください。



不安定 ← → 安定

※受信しやすい場所でも、安定するまで約10秒ほどかかります。

- 受信インジケータは、受信状態の確認および使用場所を決める際の目安としてお使いください。
- 天候、時間、環境等により電波状況は変化します。

■ 自動受信のオン/オフ

1. セット状態にする
時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約2秒間押し続けます

受信マーク “電” が点滅します。



※自動受信のオン/オフで表示を点滅させたまま 2 ~ 3 分すると、自動的に時刻表示に戻ります。

● 手動受信

時刻モードのとき

Ⓓ ボタンを約2秒間押し続けます

確認音が鳴り、受信を開始します。受信中は時と分が点滅します。



現在時刻

★ 受信を中止するときは

Ⓓ ボタンを押します

※受信中は Ⓓ ボタン以外の操作はできません。

★ 受信が成功すると
成功した時点で受信を終了し、時刻を修正後、修正日時を表示します。

※受信マーク “電” が点灯します。

★ 受信が失敗すると
時刻修正は行なわれず、手動受信のときは “ERR” を表示します。

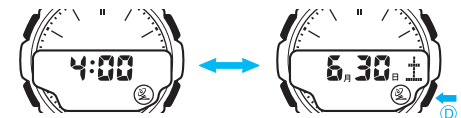
※何も操作をしないと、1 ~ 2 分後時刻モードのカレンダー表示に戻ります。

● 受信日時の確認

時刻モードのとき

Ⓓ ボタンを押します

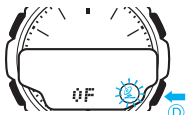
受信により最後に修正した月日と時分を表示します。時刻表示に戻すには、もう一度 Ⓓ ボタンを押します。何も操作をしないと、1 ~ 2 分後時刻モードのカレンダー表示に戻ります。



2. 切り替える

Ⓓ ボタンを押します

Ⓓ ボタンを押すごとに、オンとオフが切り替わります。



3. 切り替えを終了する

Ⓐ ボタンを押します

時刻表示に戻ります。

■ 電波タイプの切り替え

日本においてサマータイムが実施されたときに、標準電波のコード変更が行なわれることがあります。本機は、コード変更が行なわれたときでも対応できるよう、2種類のタイプを切り替えることができます。

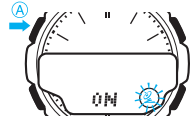
※コード変更の内容によっては、電波タイプを切り替えても正しく修正されないこともあります。

1. セット状態にする

時刻モードのとき

Ⓐ ボタンを約2秒間押し続けます

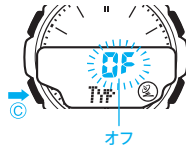
自動受信の切り替えになります。



2. 電波タイプ切り替えにする

Ⓑ ボタンを9回押します

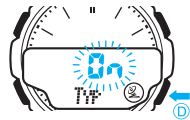
オン (On) またはオフ (Of) が点滅します。



3. 切り替える

Ⓒ ボタンを約2秒間押し続けます

Ⓒ ボタンを押し続けることに、オンとオフが切り替わります。



4. 切り替えを終了する

Ⓐ ボタンを押します

時刻表示に戻ります。

※電波タイプの切り替えで表示を点滅させたまま2〜3分すると、自動的に時刻表示に戻ります。

- サマータイムが実施されていないときは、電波タイプをオフ (Of) のままお使いください。
- サマータイムが実施されたときの電波タイプについては、カシオテクノ・サービスステーション (本誌裏面に記載) にお問い合わせください。

■ 受信に関するご注意

- 自動受信は時刻モードでのみ行なわれます。
- デジタル時刻とアナログ針部の時刻は合わせておいてください。
※この2つの時刻がずれていると、デジタル時刻が修正されてもアナログ針部の時刻が正しく表示されません。
- 受信中は、アナログ針部は動きませんので、時刻がずれていることがあります。
- 自動受信を行なう午前2時・4時・6時から15分程度は、ボタン操作を行なわないでください。
- 受信は送信されている電波の届く範囲内で行なってください。ただし、電波の届く範囲内でも、地形や建物の影響を受けたり、季節や時間帯 (昼・夜) などによってうまく受信できないことがあります。
- 電波障害により、誤った信号を受信することがあります。そのときは、再度受信を行なってください。
- 本機は日本で送信されている電波に合わせて設定されていますので、日本国外および日本の電波が届かない地域では通常の時計としてご使用ください。
- 電波受信を行なわないときは、製品仕様に記載の精度範囲で動きます。
- 極度の静電気により、誤った時刻を表示することがあります。
- 受信中はアラームなどの電子音は鳴りません。
- 本機のカレンダー機能は2020年までです。2021年以降は受信してもエラーとなります。

■ こんなときには

手動受信ができない

- 原因：時刻モード以外のときは、手動受信はできません。
処置：手動受信は時刻モードで行なってください。

「受信ON」に設定しているのに「☼」マークが消えている

- 原因：「☼」マークは受信が成功し、時刻修正を行なったときに点灯します。一日に一度も受信に成功していない場合は、点灯しません (毎日午前3時に消えます)。自動受信時に時刻モード以外になっていた。
処置：電波の届く場所で使用しているかを確認して、受信を行なってください。「受信成功」しやすい環境で使用してください。自動受信を行なうときは、時刻モードにしておいてください。また、手動で時刻修正をすると、「☼」マークは消えます。

六曜表示の見方

六曜表示は大安・赤口・友引・先負・先勝・仏滅を表示します。

●六曜サーチモードに切り替える

時刻モードで **(C)** ボタンを 1 回押します。



六曜

六曜表示の見方

大安	先勝	先負
赤口	先勝	先勝
友引	仏滅	仏滅

六曜とは、月齢計算に基づくもので、先勝（せんしょう）→友引（ともびき）→先負（せんぷ）→仏滅（ぶつめつ）→大安（たいあん）→赤口（しゃっこう）の順に繰り返されますが、旧暦 1 日で繰り返しが変わります。

●カレンダーで探す

- ① ボタンを押すごとに 1 日ずつ進みます。
- ※押し続けると連続して送ることができます。
- ※戻すときは、**(A)** ボタンを押し続けると当日に戻ります。



●六曜で探す

- 「カレンダーで探す」で探したい六曜を表示させてから **(A)** ボタンを押すと、次の「同じ六曜の日」を表示します。
- ※戻すときは、**(A)** ボタンを押し続けると当日に戻ります。



※六曜表示のまま 2～3 分すると、自動的に時刻モードに戻ります。

アラーム・時報の使い方

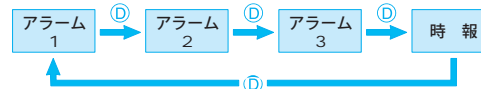
アラームは分単位でセットでき、セット時刻になると 10 秒間の電子音で知らせてくれます。アラームは 3 本あり、いずれも同じ使い方ができます。また、毎正時（00 分）にビビッと電子音で時報を鳴らすこともできます。

■アラームのセット

1. アラームを選ぶ

(D) ボタンを押します

① ボタンを押すごとに、以下の順に切り替わります。



2. セット状態にする

(A) ボタンを約 2 秒間押し続けます

「時」が点滅します。
※アラーム ON マークが点灯します。



3. 「時」をセットする

① または **(B)** ボタンを押します

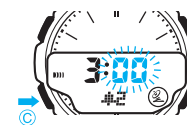
- ① ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、**(B)** ボタンを押すごとに戻ります。
- ※押し続けると早送りができます。
- ※「時」のセットのとき午前/午後にご注意ください。
- ※基本時刻を 24 時間制表示にしているときは、アラーム時刻も 24 時間制表示となります。



4. 「分」のセットに切り替える

(C) ボタンを押します

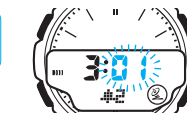
「分」が点滅します。



5. 「分」をセットする

① または **(B)** ボタンを押します

- ① ボタンを押すごとに 1 つずつ進み、**(B)** ボタンを押すごとに戻ります。
- ※押し続けると早送りができます。



6. セットを終了する

(A) ボタンを押します

点滅が止まります。

※アラームのセットで表示を点滅させたまま 2～3 分すると、自動的に点滅が止まり、アラーム表示に戻ります。

●鳴っている電子音を止めるには
いずれかのボタンを押します。

●デモアラーム

アラームモードで **(D)** ボタンを押している間、電子音が鳴ります。

2. 切り替える

(A) ボタンを押します

押すごとにアラームまたは時報のオンとオフが切り替わります。



■アラーム・時報のオン/オフ

1. アラームまたは時報を選ぶ

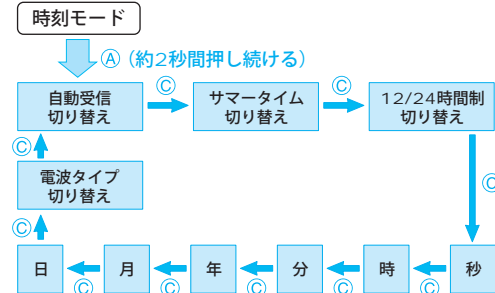
(D) ボタンを押します



時刻・カレンダーの合わせ方

時刻とカレンダーは、「自動受信オン」にしておくと自動的に正しく修正されますので、通常は修正する必要ありません。電波受信ができないときや、「自動受信オフ」にしてあるときなどは、ここで説明する操作にしたがって合わせてください。

■ セット内容



※時刻モードの表示に戻すには、もう一度Aボタンを押します。

3. セットする

① または ② ボタンを押します



③ ボタンを押してセットしたい箇所を移動させ、④ または ⑤ ボタンを押してセットする操作を繰り返します。

※サマータイム切り替えは、④ ボタンを押すことにONとOFF(オフ)が切り替わります。

※12/24時間制切り替えは、④ ボタンを押すことに12時間制表示と24時間制表示が切り替わります。

※秒合わせは、④ ボタンを押すと「秒」が00~29秒のときは切り捨てられ、30~59秒のときは1分繰り上がって「00秒」からスタートします。

※「時」のセットのとき、午前/午後(P)および24時間制にご注意ください。

※「年月日」は西暦で2000年1月1日~2020年12月31日までセットできます。

※曜日・六曜は年月日を合わせると自動的にセットされます。

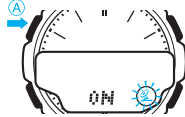
■ デジタル部のセット

1. セット状態にする

時刻モードのとき

① ボタンを約2秒間押し続けます

受信マーク「電」が点滅します。



2. 切り替える

③ ボタンを押します

③ ボタンを押すごとに、セット箇所(点滅箇所)が左図の順に移動します。



4. セットを終了する

① ボタンを押します

時刻表示に戻ります。

※時刻・カレンダーのセットで表示を点滅させたまま2~3分すると、自動的に時刻表示に戻ります。

★カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は修正不要です。

サマータイムとはDST (Daylight Saving Time) とも言い、通常の時刻から1時間進める夏時間制度のことです。サマータイムの採用時期は都市により異なりますし、採用していない都市もありますのでご注意ください。

〈シンクロ機能〉

デジタル部の時刻を修正すると、アナログ部の針も自動修正されます。

※針の修正は、デジタル部の修正に合わせて送り(正転方向)または戻し(逆転方向)されます。

※戻し修正の場合でも送りで修正されることがあります。

このときデジタル部には「電」と「電」が交互に表示されます。

※針の修正は、デジタル部の修正時刻によって時間がかかることがあります。

デジタル部とアナログ部の時刻を同時に修正するときは、デジタル部の時刻を先に修正してください。

■ アナログ部(針)の修正

アナログ部の時刻とデジタル部の時刻が合っていないときは、ハンドセットモードで合わせてください。

1. セット状態にする

ハンドセットモードのとき

① ボタンを約2秒間押し続けます

時・分が点滅します。



2. アナログ部を合わせる

① または ② ボタンを押します

① ボタンを押すごとに時計回りに1/3分(20秒)ずつ進み、② ボタンを押すごとに戻ります。

※押し続けると早送りができます。



3. セットを終了する

① ボタンを押します

点滅が止まります。

※点滅表示のまま2~3分すると、自動的に点滅が止まります。

針の自動送り

- ① ボタンを押し続けて早送り中に② ボタンを押すと、ボタンを離しても針が進み続けます。
- ② ボタンを押し続けて早送り中に① ボタンを押すと、ボタンを離しても針が戻り続けます。
- 自動送りは時計が一回りするか、いずれかのボタンを押すと止まります。

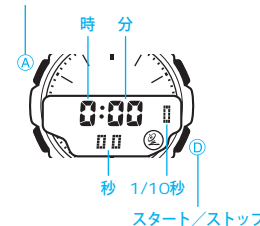
ストップウォッチの使い方

ストップウォッチは1/10秒単位で23時間59分59秒9(24時間計)まで計測でき、以後、自動的に0に戻って計測を続けます。

■ 計測のしかた

- ① ボタンを押すごとに、計測がスタート/ストップします。
- 計測がストップしているときに② ボタンを押すと、0時間00分00秒0(リセット表示)になります。
- 計測中に③ ボタンを押すと、表示は止まりますが、内部では計測を続けるスプリットタイム(途中経過時間)計測となります。

スプリット/リセット



● 通常の計測



＜積算計測＞
ロスタイムがある場合は、ストップ後リセットせずに④ ボタンを押して再スタートすれば、表示タイムに引き続き計測を始めます。

● スプリットタイム計測



● 1着・2着同時計測

